

刊行に寄せて



文部科学大臣

萩生田 光一

平成23年（2011年）、東日本大震災が発生し、我が国に未曾有の大災害をもたらしました。その10年後となる本年、世界は新型コロナウイルス感染症拡大という大変な脅威に直面しております。この脅威に対応するため、政府としても全力をあげて取り組んでいるところです。また、これらに加え、温室効果ガスの排出抑制といった地球温暖化への対応等も人類共通の喫緊の課題となっております。

科学技術・イノベーションの力で、こうした脅威に対する国民の安全・安心な暮らしを確保することは喫緊の課題です。また、さらには、科学技術・イノベーションの力で、経済的な豊かさのみならず、精神的な豊かさも含めた、一人ひとりの多様な幸せ（well-being）の実現を可能にしていくことが必要です。

こうした考えの下、政府は、第6期科学技術・イノベーション基本計画を策定し、我が国が目指す未来社会“Society 5.0”の実現を表明しました。

資源の少ない我が国の生命線は、科学技術・イノベーションであり、科学技術・イノベーションの力によって、Society 5.0という新しい未来社会を創造し、安全・安心の確保と一人ひとりの多様な幸せ（well-being）の実現を目指します。

今回の白書第1部では、我が国が目指す未来社会像や、その実現に向けた最先端の取組を紹介しております。本白書が、国民の皆様にとって、科学技術・イノベーションに関する施策の現状を御理解いただく一助となることを願っております。